

(様式第 9)

自病医経第 197号  
平成23年10月5日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人自治医  
理事長 香山充

自治医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	72.5	人
--------	------	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	687人	53.0人	740.0人	看護補助者	28人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	22人	2.3人	24.3人	理学療法士	15人	臨床検査技師	113人
薬剤師	61人	0人	61.人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	2人	0人	2.人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	59人	3人	61.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1141人	58人	1183.4人	臨床工学技士	18人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	0人	0人	0.人	栄養士	0人	その他の技術員	17人
歯科衛生士	7人	2人	8.6人	歯科技工士	2人	事務職員	113人
管理栄養士	12人	1人	13.人	診療放射線技師	65人	その他の職員	9人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	895 人	16 人	911 人
1日当たり平均外来患者数	2501 人	134 人	2635 人
1日当たり平均調剤数	2487 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
胎児心音超音波検査	94人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	24人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	7人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	0人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	54人
先天性難聴の遺伝子診断	0人
腹腔鏡下直腸固定術	0人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	13人
腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	145人
頸部内視鏡手術 甲状腺濾胞腺腫、腺腫様甲状腺腫、パセドウ病又は原発性上皮小体機能亢進症	0人
パクリタキセル静脈内投与(1週間に1回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(3週間に1回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	81人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	72人	・広範脊柱管狭窄症	42人
・重症筋無力症	126人	・原発性胆汁性肝硬変	33人
・全身性エリテマトーデス	402人	・重症急性膵炎	18人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	44人
・再生不良性貧血	67人	・混合性結合組織病	59人
・サルコイドーシス	119人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	45人	・特発性間質性肺炎	20人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	204人	・網膜色素変性症	15人
・特発性血小板減少性紫斑病	130人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	42人	・肺動脈性肺高血圧症	13人
・潰瘍性大腸炎	264人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	47人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	20人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	37人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7人
・脊髄小脳変性症	88人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	176人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	11人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	8人	・脊髄性筋萎縮症	5人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	294人	・球脊髄性筋萎縮症	9人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	26人
・後縦靭帯骨化症	86人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	44人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	46人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	43人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	66人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・胎児心音超音波検査	・
・眼底3次元画像解析	・
・乳がんセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	110回
部 検 の 状 況	部検症例数 52 例 / 部検率 6.5%

1. 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元又は委託元
夜間睡眠時血圧測定計の開発と臨床応用へ向けた国際多施設研究への展開	苅尾七臣	循環器内科	416万	補	科学研究費補助金(基盤研究B)
急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究	苅尾七臣	循環器内科	70万	補	厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
白質病変のリスクと臨床的意義の検討—加齢・認知症における脳皮質下病変の危険因子とその臨床的意義に関する縦断研究	苅尾七臣	循環器内科	150万	補	厚生労働省科学研究費補助金(長寿医療研究開発費)
メタボリックシンドロームにおける血管老化予防の新戦略	江口和男	循環器内科	65万	補	科学研究費補助金(基盤研究C)
難治性心臓病における自然免疫経路を介した初期炎症反応の役割の解明と新たな治療法の開発に関する研究	高橋将文	循環器内科	800万	補	H22年度研究助成事業 車両競技公益資金記念財団
血友病とその治療に伴う合併症の克服に関する研究	高橋将文	循環器内科	230万	補	厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)
心血管ストレスの感知機構としてのインフラマソームの役割の解明	高橋将文	循環器内科	710万	補	文部科学省科学研究費(新学術領域研究)
心血管疾患における新規治療標的としてのアダプター分子ASCとその制御機構の解明	高橋将文	循環器内科	100万	補	文部科学省科学研究費(基盤研究C-2)

2.論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hypertens 2010;28:918-924	Reproducibility of Ambulatory Blood Pressure in Treated and Untreated Hypertensive Patients.	Eguchi K, Hoshide S	循環器内科
J Am Soc Hypertens 2010;4:255-262	Short sleep duration is an independent predictor of stroke events in elderly hypertensive patients.	Eguchi K, Hoshide S	循環器内科
Blood Press Monit 2010;15:308-311	Is very low dose hydrochlorothiazide combined with candesartan effective in uncontrolled hypertensive patients?	Eguchi K, Hoshide S	循環器内科
Am J Hypertens 2010;23:222-223	Is nondipping harmful in normotensive, healthy subjects?	Eguchi K, Kario K	循環器内科
Am J Hypertens 2010;23:522-527	Controlling evening BP as well as morning BP is important in hypertensive patients with prediabetes/diabetes: the JMS-1 study.	Eguchi K, Matsui Y	循環器内科
Hypertens Res 2010;33:737-742	Increased Heart Rate Variability During Sleep Is a Predictor For Future Cardiovascular Events in Patients with Type 2 Diabetes.	Eguchi K, Schwartz JE	循環器内科
Expert Rev Cardiovasc Ther 2010;8:1531-1539	Aging and hypertension.	Fukutomi M, Kario K	循環器内科
J Cardiol Case 2010;2:e28-e31	Effectiveness of bromocriptine treatment in a patient with peripartum cardiomyopathy.	Ichida M, Katsurada K	循環器内科
J Hypertens 2010;28:1340-1346	An increased visceral-subcutaneous adipose tissue ratio is associated with difficult-to-treat hypertension in men.	Ishikawa J, Haimoto H, Hoshide S, Eguchi K, Shimada K, Kario K : J-HOP Study Investigators Group	循環器内科
J Clin Hypertens 2010;12:578-587	Masked Hypertension defined by Ambulatory Blood Pressure Monitoring is associated with an Increased Serum Glucose Level and Urinary Albumin-creatinine Ratio.	Ishikawa J, Hoshide S	循環器内科
J Hypertens 2010;28:1630-1637	Prehypertension and the risk for cardiovascular disease in the Japanese general population: The Jichi Medical School Cohort Study.	Ishikawa Y, Ishikawa J, Ishikawa S, Kajii E, Schwartz JE, Pickering TG, Kario K: Jichi Medical School Cohort Investigators Group	循環器内科
Am J Hypertens 2010;23:749-755	The effect of pulse rate and blood pressure dipping status on the risk of stroke and cardiovascular disease in Japanese hypertensive patients.	Kabutoya T, Hoshide S	循環器内科



J Clin Hypertens 2010;12:345-349	Poor blood pressure and urinary albumin excretion responses to home blood pressure-based antihypertensive therapy in depressive hypertensive patients.	Kabutoya T, Ishikawa J	循環器内科
J Arrhythmia 2010;26:16-20	Beneficial effects of upgrading from right ventricular pacing to cardiac resynchronization therapy in patients with heart failure compared to de novo cardiac resynchronization therapy.	Kabutoya T, Mitsuhashi T, Hata Y	循環器内科
J Hypertens 2010;28:657-659	Measuring the effects of stress on the cardiovascular system during a disaster - The effective use of self-measured blood pressure monitoring-	Kario K	循環器内科
J Am Soc Hypertens 2010;4:215-218	Proposal of RAS-diuretic vs. RAS-calcium antagonist strategies in high-risk hypertension: insight from the 24-hour ambulatory blood pressure profile and central pressure.	Kario K	循環器内科
Hypertension 2010;56:765-773	Morning Surge in Blood Pressure and Cardiovascular Risk - Evidence and Perspectives -	Kario K	循環器内科
J Hypertens 2010;28:1574-1583	Effect of dosing time of angiotensin II receptor blockade titrated by self-measured blood pressure recordings on cardiorenal protection in hypertensives: the Japan Morning Surge-Target Organ Protection (J-TOP) study.	Kario K, Hoshida S	循環器内科
Pharmaceuticals 2010;3:225-236	A new baroreceptor sensitivity-restoring Ca-channel blocker diminishes age-related morning blood pressure increase in hypertensive patients: open-label monitoring of azelmidipine treatment for hypertension in the early morning (At-HOME) Study.	Kario K	循環器内科
Eur Heart J 2010;32:574-580	Additional impact of morning haemostatic risk factors and morning blood pressure surge on stroke risk in older Japanese hypertensive patients.	Kario K, Yano Y	循環器内科
J Cell Sci 2010;123:747-755	Functional molecular imaging of ILK-mediated Akt/PKB signaling cascades and the associated role of b-parvin.	Kimura M	循環器内科
Heart Asia 2010;2:1-4	Roles of ghrelin in left-ventricular remodelling after acute myocardial infarction.	Kondo H, Hojo Y	循環器内科

Am J Hypertens 2010;in press	Urinary Albumin Excretion During Angiotensin II Receptor blockade: Comparison of Combination Treatment With a Diuretic or a Calcium-Channel Blocker.	Matsui Y, Eguchi K	循環器内科
Atherosclerosis 2010;215:184-188	Association between aldosterone induced by antihypertensive medication and arterial stiffness reduction : The J-CORE study.	Matsui Y, Eguchi K	循環器内科
J Hypertens 2010;28:1752-1760	Impact of arterial stiffness reduction on urinary albumin excretion during antihypertensive treatment: the Japan morning Surge-1 study.	Matsui Y, Eguchi K	循環器内科
J Clinl Hypertens 2010;12:776-783	Morning hypertension assessed by home monitoring is a strong predictor of concentric left ventricular hypertrophy in patients with untreated hypertension.	Matsui Y, Eguchi K	循環器内科
Am J Hypertens 2010;23:260-268	Cross-sectional characterization of all classes of antihypertensives in terms of central blood pressure in Japanese hypertensive patients.	Miyashita H, Aizawa A	循環器内科
Am J Hypertens 2010;23:116-124	Hypertension and dementia.	Nagai M, Hoshide S	循環器内科
Curr Cardiol Rev 2010;6:54-61	Sleep duration as a risk factor for cardiovascular disease-a review of the recent literature.	Nagai M, Hoshide S	循環器内科
J Am Soc Hypertens 2010;4:174-182	The insular cortex and cardiovascular system: a new insight into the brain-heart axis.	Nagai M, Hoshide S	循環器内科
JMAJ 2010;53:1-2	Will the "JMU System" Stop Medical System Collapse?	Shimada K	循環器内科
大韓高血圧学会誌 2010;16	Perfect 24-Hour BP Management for High-Risk Hypertension	Shimizu M, Kario K	循環器内科
J Mol Cell Cardiol 2010;49:341-342	Immature erythroid cells: a new source for therapeutic angiogenesis?	Takahashi M	循環器内科
J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 2010;inpress	Efficacy of Eplerenone added to Renin-Angiotensin Blockade in Elderly Hypertensive Patients -The Jichi-Eplerenone Treatment (JET) Study-	Yano Y, Hoshide S	循環器内科

Am J Hypertens 2010;24:285-291	Association of Poor Physical Function and Cognitive Dysfunction With High Nocturnal Blood Pressure Level in Treated Elderly Hypertensive Patients.	Yano Y	循環器内科
Hypertens Res 2010;33:981-983	Therapeutic implications of high-dose angiotensin receptor blocker monotherapy in mild-to-moderate hypertensive patients.	Yano Y, Kario K	循環器内科
J Gerontol A Biol Sci Med Sci 2010;65:547-552	Plasma Pentraxin 3, but not high-sensitivity C-reactive protein, is a useful inflammatory biomarker for predicting cognitive impairment in elderly hypertensive patients.	Yano Y	循環器内科

計 37件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日血外会誌19(6):657-663, 2010	腹部大動脈瘤破裂術後abdominal compartment syndrome (ACS)の予防と対策	相澤啓	心臓血管外科
日臨外会誌71(8):1976-1979, 2010	化膿性心膜炎より急速に収縮性心膜炎をきたした1例	村岡新	心臓血管外科
心臓42(5):676-679, 2010	高度右室流出路狭窄を示した成人右室二腔症、肥大型心筋症との鑑別を要した1例	坂野康人	心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 58(8):420-422, 2010	Asymptomatic papillary fibroelastoma of the mitral valve	岩下ちひろ	心臓血管外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg 12(1):91-93, 2011	Mycotic superior mesenteric pseudoaneurysm draining into a vein	白石学	心臓血管外科
日心外会誌40(1):10-13, 2011	冠動脈起始異常を合併する大動脈弁閉鎖不全の1手術例	小島望	心臓血管外科
胸部外科64(3):225-229, 2011	3種類の人工弁機能不全をきたした僧帽弁置換術	小島望	心臓血管外科
Interactive Cardiovasc Thorac Surg 12(3):502-	Rapidly growing aortic arch aneurysm in Behcet's disease	小島望	心臓血管外科

計 8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Shhの腸上皮化生粘膜における低下の原因	武藤弘行	消化器内科	1,100,000円	補委 基盤研究C
胃癌の前癌病変である腸上皮化生粘膜における転写因子Cdx2とCdx1の関係	武藤弘行	消化器内科	1,100,000円	補委 基盤研究C
感染発がんエンハンサーとしての宿主応答とその制御	武藤弘行	消化器内科	3,000,000円	補委 新学術領域
				補委

計 3

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Differentiation. 2011;81:92-8.	Sox2 expression is maintained while gastric phenotype is completely lost in Cdx2-induced intestinal metaplastic mucosa.	Mutoh H	消化器内科
J Gastroenterol. 2011;46:620-8.	Cell lineage dynamics in the process leading to intestinal metaplasia.	Mutoh H	消化器内科
Biochem J. 2010;427:423-34.	Direct repression of Sonic Hedgehog expression in the stomach by Cdx2 leads to intestinal transformation.	Mutoh H	消化器内科
Cancer Sci. 2010;101:1783-9.	Monocyte chemoattractant protein-1 is generated via TGF-beta by myofibroblasts in gastric intestinal metaplasia and carcinoma without H. pylori infection.	Mutoh H	消化器内科
Cancer Sci. 101:60-64, 2010	Identification of the transforming activity of Indian hedgehog by retroviral expression screening.	Hatanaka, H.	消化器内科
Cancer Sci. 101:54-59, 2010	Identification of transforming activity of free fatty acid receptor 2 by retroviral expression screening.	Hatanaka, H.	消化器内科
Gastrointest Endosc. 72:658-659, 2010	Reduction of ileoileal intussusception by using double-balloon endoscopy in Peutz-Jeghers syndrome (with video).	Miura, Y.	消化器内科
Clin J Gastroenterol 3:50-56, 2010	A case of acute hepatitis C caused by interspousal transmission after 30 years of marriage.	Nishimura, N.	消化器内科
Gastrointest Endosc. 71:287-294, 2010	Safety and efficacy of double-balloon enteroscopy in pediatric patients.	Nishimura, N.	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun. 393:61-65, 2010	IL-13 promotes the proliferation of rat pancreatic stellate cells through the suppression of NF-κB/TGF-β1 pathway.	Shinozaki, S.	消化器内科
Clin Gastroenterol Hepatol. 8:151-158, 2010	Long-term outcome of patients with obscure gastrointestinal bleeding investigated by double-balloon endoscopy.	Shinozaki, S.	消化器内科
Gastroenterology 139: 2215-2217, 2010	Reply for Timing, Timing, Timing of Deep Enteroscopy! A Key Factor for Diagnosis of Small Intestinal Hemorrhage, but does it Impact Patient Outcomes?	Shinozaki, S.	消化器内科
Clin J Gastroenterol. 3:88-91, 2010	Diagnosis of small flat early gastric cancer by flexible spectral imaging color enhancement.	Toma, S.	消化器内科
Front Gastrointest Res. 27:287-295, 2010.	Endoscopic Submucosal Dissection for Colorectal Tumors. Interventional and Therapeutic Gastrointestinal Endoscopy.	Yamamoto, H.	消化器内科

計 14

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
難治性膵疾患に関する調査研究	佐田尚宏	消化器外科	120万	補委 厚生労働省科学研究費
KER2陽性乳がんに対する術前抗HER2抗体療法における効果予測マーカーの探索的研究, HER2陽性乳がんに関する臨床的特徴の探索	穂積康夫	一般外科	50万	補委 国立がんセンターがん研究開発費
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

- (注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
画像診断	CT colonographyを用いた大腸癌術前診断.	堀江久永	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	結腸憩室炎と鑑別が困難であった回腸憩室炎の1例.	井上賢之	消化器・一般外科
手術	胆嚢パッチにより胆道再建を行った肝門部胆管破裂の1例.	石黒保直	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	消化管アミロイドーシスによる盲腸穿孔の1例.	勝部乙大	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	腎移植後の移植側鼠径ヘルニアの2例.	小泉 大	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	巨大な特発性副腎血腫の1例.	小泉 大	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	消毒薬を使用しない術後創処置の有用性とその経済的効果.	小泉 大	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	長期生存中の門脈内腫瘍塞栓を伴う胃癌の1例.	森嶋 計	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	画像診断が可能な胆管浸潤を伴った大腸癌肝転移の1例.	仁平芳人	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	術前化学療法により組織学的完全奏効が得られた高度浸潤直腸癌の1例.	田口昌延	消化器・一般外科
外科	胃壊死を伴った急性胃拡張により致死的な虚血再灌流症候群をきたした1例.	田原真紀子	消化器・一般外科
肝胆膵	【造影超音波は臨床を変えるか】肝臓疾患に対する造影超音波 術中造影超音波検査の術式への活用.	安田是和	消化器・一般外科
日本臨床外科学会雑誌	特発性腸間膜血腫の1例.	横田真一郎	消化器・一般外科
Dig. Endosc.	Virtual enteroscopy using air as the contrast material: a preliminary feasibility study.	Endo, K.	消化器・一般外科
Jpn J. Clin. Oncol.	Successful treatment of esophageal squamous cell carcinoma in a patient with Fanconi anemia.	Hosoya, Y.	消化器・一般外科
World Journal of Gastroenterology	Right anterior segmental hepatic duct emptying directly into the cystic duct in a living donor.	Ishiguro, Y.,	消化器・一般外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Peptides	Reconstruction-dependent recovery from anorexia and time-related recovery of regulatory ghrelin system in gastrectomized rats.	Koizumi, M.	消化器・一般外科
JOP	Remnant pancreatectomy for recurrent or metachronous pancreatic carcinoma detected by FDG-PET : two case reports.	Koizumi, M.	消化器・一般外科
The Internet Journal of Urology	Urinary bladder reupture associated with squamous cell carcinoma of the bladder; A cause of acute peritonitis.	Ohzawa, H.	消化器・一般外科
Experimental and Therapeutic Medicine	Immunohistochemical assessment of primary breast tumors and metachronous brain metastases, with particular regard to differences in the expression of biological markers and prognosis.	Omoto, Y.	消化器・一般外科
Int. J. Clin. Oncol	Alternate-day treatment with S-1 in patients with gastric cancer : a retrospective study of strategies for reducing toxicity.	Sakuma, K.	消化器・一般外科
HPB	Resection of hilar cholangiocarcinoma with left hepatectomy after pre-operative embolization of the proper hepatic artery.	Yasuda, Y.	消化器・一般外科
Gastrointest. Endosc.	Crohn's disease confined to the appendix.	Yokota, S.	消化器・一般外科
Esophagus	Resection of a lymph node metastasis and local recurrence after a complete response to chemoradiotherapy for esophageal carcinoma. Case Report.	Zuiki, T.	消化器・一般外科
肝臓	高脂血症を合併した肝細胞癌の1例.	森嶋 計	消化器・一般外科

計 5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)  
2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	補 委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委

計 0

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
呼吸30(3):230-236,2011.	病態に基づいた臍胸の外科治療.	手塚憲志	呼吸器外科
胸部外科63(5):351-352,2010.	多発原発性肺癌手術例の検討	遠藤俊輔	呼吸器外科
J Bronchol pulmonol 17(3):273-275,2010.	無症候性の後天性左上葉気管支閉鎖症の1手術例.	中野智之	呼吸器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 59(3):209-211,2011.	Extrapulmonary hamartoma.	遠藤哲哉	呼吸器外科

計 4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績 [平成21年4月～平成22年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
乳幼児破局てんかんの実態と治療指針に関する研究	渡辺英寿	脳神経外科	800,000	①補委 厚生労働省
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計1

- (注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
乳幼児破局てんかんの実態と診療指針に関する研究 課題番号H22-難治-一般-063 平成22年度総括・分担研究報告書 pp. 14-16	破局てんかんの外科的手術全国実態調査	渡辺英寿	脳神経外科

計 /

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
戦略研究(腎疾患重症化予防のための戦略研究)	草野 英二	腎臓内科学部門	500,000	補委 厚生労働省補助
糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法確立のための評価表の開発	草野 英二	腎臓内科学部門	500,000	補委 厚生労働省補助
ANCA関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究	湯村 和子	腎臓内科学部門	1,200,000	補委 厚生労働省補助
糖尿病性微小血管障害の心腎関連の機序の解明:ナトリウム調節臓器としての腎臓の役割	武藤 重明	腎臓内科学部門	1,700,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
エポエチン、ダルベポエチン投与による赤血球形態および赤血球寿命の差異に関する検討	斎藤 修	腎臓内科学部門	500,000	補委 (財)日本腎臓財団公募助成「腎不全病態研究助成」
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床体液37:21-23,2010	悪性高血圧における血清アルドステロンの増加と微小血管性溶血性貧血の関係について	珍田純子、他	腎臓内科学部門
透析会誌43(3):347-349, 2010	エビデンスレベル評価とガイドライン推奨度について	深川雅史、他	腎臓内科学部門
日本医事新報4472:46-52, 2010	血管炎の新分類基準 新治療や発症機構研究の世界的動向	橋本博史、他	腎臓内科学部門
腎と透析69(別冊腹膜透析2010):436-437,2010	腹膜傷害動物モデルにおける酸化ストレスの亢進	平原一郎、他	腎臓内科学部門
栃木県医学会会誌40:112-114, 2010	栃木県立学校における学校腎臓検診について(平成21年度)	加納健一、他	腎臓内科学部門
腎と骨代謝23(3):233-238, 2010	血液透析患者における閉経後骨粗鬆症の影響	斎藤 修、他	腎臓内科学部門
透析会誌43(6):523-530, 2010	ダルベポエチン休薬により血小板減少を認めた維持透析患者の2例, Erythropoiesis stimulating agent (ESA) 投与中止が血小板数に及ぼす影響	斎藤孝子、他	腎臓内科学部門
透析会誌43(11):909-917, 2010	NIKKNAVI研究会:透析中の循環血液量モニタリングによる新しいドライウエイト設定法の評価	吉田 泉、他	腎臓内科学部門
日本血液浄化技術学会雑誌18(2):70-72, 2010	血液透析導入後の体組織の経時的変化 InBody S20での検討	白石 武、他	腎臓内科学部門
日本腎臓学会誌53(2):78-122, 2010	ネフローゼ症候群診療指針	松雄清一、他	腎臓内科学部門
日本透析医学会雑誌44(2):169-172, 2010	内シャント狭窄に対してアルガトロバンによる抗凝固療法下に経皮的血管形成術(PTA)を施行し得たヘパリン起因性血小板減少症(HIT)の1例	加藤真紀、他	腎臓内科学部門

11

Clin Exp Nephrol 14(2):180-184,2010	Transarterial renal embolization for enlarged horseshoe kidney	Fujisaki, A、他	腎臓内科学部門
Mod Rheumatol 20(6):602-605,2010	Development of myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-associated renal vasculitis in a patient receiving treatment with anti-tumor necrosis factor- $\alpha$	Hirohama, D、他	腎臓内科学部門
Circ J 74(11):2426-2433, 2010	Characteristics of revascularization treatment for arteriosclerosis obliterans in patients with and without hemodialysis	Hoshino, J、他	腎臓内科学部門
Expert Opin Biol Ther 10(12):1729-1742,2010	Harmacotherapy and interventional treatments for secondary hyperparathyroidism: current therapy and future challenges	Komaba, H、他	腎臓内科学部門
Prog Transplant 20(4):318-319,2010	Circumocular exanthema associated with chronic rejection after kidney transplantation	Morishita, Y、他	腎臓内科学部門
Proc Natl Acad Sci USA 107(17):8011-8016,2010	Claudin-2-deficient mice are defective in the leaky and cation-selective paracellular permeability properties of renal proximal tubules	Muto, S、他	腎臓内科学部門
J Biol Chem285(29): 22141-22151, 2010	A novel transporter of SLC22 family specifically transports prostaglandins and co-localizes with 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase in renal proximal tubules	Shiraya, K、他	腎臓内科学部門
Clin Nephrol74:403-408, 2010	Pseudoaldosteronism with increased serum cortisol associated with pneumonia, hypouricemia, hypocalcemia, and hypophosphatemia	Onishi, A、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 14(5):506-510,2010	AL amyloidosis with IgD-lambda monoclonal gammopathy and lambda-type Bence-Jones protein: successful treatment by autologous stem	Sakurai-Chin, C、他	腎臓内科学部門
Endocrinology 151(8):4031-4038.2010	Development of a technique for introduction of an expressed complementary deoxyribonucleic acid into parathyroid cells by direct injection	Shiizaki, K、他	腎臓内科学部門
Clin Nephrol 74(6):446-456,2010	Hepatitis C virus-related kidney disease: various histological patterns	Sumida, K、他	腎臓内科学部門
Clin Rheumatol 29(10):1191-1194,2010	Etanercept-refractory adult-onset Still's disease with thrombotic thrombocytopenic purpura successfully treated with tocilizumab	Sumida, K、他	腎臓内科学部門
Nephrol Dial Transplant Plus(3):330-331,2010	Marked improvement in renal function after rectal cancer resection in a case of anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody-negative pauci-immune crescentic glomerulonephritis	Takeda, S、他	腎臓内科学部門
J Clin Microbiol 48(4):1112-1125,2010	Hepatitis E Virus (HEV) strains in serum samples can replicate efficiently in cultured cells despite the coexistence of HEV antibodies: characterization of HEV virions in blood circulation	Takahashi, M、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol1 4(6):625-629,2010	Long-term preserved renal function of a patient with mass-forming granulomatous interstitial nephritis by biopsy-based steroid therapy	Yamauchi, J、他	腎臓内科学部門
J Bone Miner Metab 29(2):245-250,2010	Severe osteomalacia caused by short bowel syndrome in a patient on long-term hemodialysis after parathyroidectomy	Yamauchi, J、他	腎臓内科学部門
Clin Chim:411(9-10): 762-764,2010	Captopril directly inhibits matrix metalloproteinase-2 activity in continuous ambulatory peritoneal dialysis therapy	Yamamoto, D、他	腎臓内科学部門
Ther Apher Dial 14(6): 560-565,2010	A new device to monitor blood volume in hemodialysis patients	Yoshida, I、他	腎臓内科学部門
clin Exp Hypertens 33(2):77-83,2011	Clinical features of malignant hypertension with thrombotic microangiopathy	Akimoto, T、他	腎臓内科学部門
Inter Med 50(1):47-51, 2010	A case of cervical cancer-related membranous nephropathy treated with radiation therapy	Ito, C、他	腎臓内科学部門
Hypertens Res 34(3):308-3013,2010	Effects of aliskiren on blood pressure and the predictive biomarkers for cardiovascular disease in hemodialysis-dependent chronic kidney disease patients with hypertension	Morishita, Y、他	腎臓内科学部門

Clin Exp Nephrol 15(1):126-131,2010	The effects of raloxifene on bone turnover markers and bone mineral density in women on maintenance hemodialysis	Saito,O、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(1):154-158,2010	Tumoral calcinosis associated with hypercalcemia in a patient with chronic renal failure	Horikoshi,R、他	腎臓内科学部門
Clin Exp Nephrol 15(1):132-135,2010	Clinical remission of Henoch-Schonlein purpura nephritis after a monotherapeutic tonsillectomy	Iwazu Y、他	腎臓内科学部門

計 35

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なもの  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	補助元又は委託元
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
移植 45(3)	腎移植臨床登録集計報告(2010)-1 2009年実施症例の集計報告(1)	八木澤 隆	腎臓センター外科
移植 45(6)	腎移植臨床登録集計報告(2010)-2 2009年実施症例の集計報告(2)	八木澤 隆	腎臓センター外科
移植 45(6)	腎移植臨床登録集計報告(2010)-2 2009年経過追跡調査結果	八木澤 隆	腎臓センター外科
腎移植・血管外科22	T-cellクロスマッチ要請を示した 血液型不適合腎移植の1例	石川 暢夫 他	腎臓センター外科
今日の移植 23	腎移植後早期に発症した ウイルス性尿路感染症の1例	石川 暢夫 他	腎臓センター外科
Transplant Proc 42	Acceptable residual renal function after retroperitoneo scopic kidney donation in elderly donors.	Yashi.M	腎臓センター外科

計6

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度医療の技術の開発及び評価の実績

①研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
難治性疾患克服研究事業： 特発性造血障害に関する調査研究	小澤敬也	血液学部門	69,707千円 (班全体)	補 委 厚生労働省
免疫アレルギー疾患等予 防・治療研究事業：間葉系 幹細胞を利用した新しい造 血幹細胞移植技術の開発に 関する研究	小澤敬也	血液学部門	5,884千円 (班全体)	補 委 厚生労働省
基盤B（一般）：骨髄由来 の間葉系幹細胞を利用した 遺伝子治療法の開発	小澤敬也	血液学部門	5,980千円	補 委 日本学術振興会
脳科学研究戦略推進プログ ラム：アデノ随伴ウイルス ベクターを用いた脳機能の 制御技術の開発	小澤敬也	血液学部門	18,000千円 (班全体)	補 委 文部科学省
基盤C：白血病細胞のおけ るRCAN1依存性の細胞機能 脱制御メカニズムの解明	永井 正	血液学部門	2,080千円	補 委 日本学術振興会
基盤C：IL-21抑制による GVHD制御のメカニズム	尾崎勝俊	血液学部門	1,300千円	補 委 日本学術振興会
ヘモクロマトーシスの実態 調査と診断基準作成	鈴木隆浩	血液学部門	2,000千円	補 委 厚生労働省
若手B：間葉系幹細胞の免 疫抑制能に関する研究	多々良礼音	血液学部門	1,820千円	補 委 文部科学省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

1/8



②論文発表の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	研究者氏名	所属部門
J. Clin. Exp. Hematop.	A long course of leukocytopenia and splenomegaly with extramedullary hematopoiesis in the absence of clinically manifested rheumatoid	Muroi, K., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Leuk. Lymphoma	Prognostic potential of detection of WT1 mRNA level in peripheral blood in adult acute myeloid leukemia.	Miyawaki, S., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Leukemia	HDAC inhibitors augment cytotoxic activity of rituximab by upregulating CD20 expression on lymphoma cells.	Shimizu, R., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Mol. Ther.	A phase I study of aromatic l-amino acid decarboxylase gene therapy for Parkinson's disease.	Muramatsu, S., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Hum. Gene Ther.	Characterization of a recombinant adeno-associated virus type 2 reference standard material.	Lock, M., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Blood	Histone deacetylases are critical targets of bortezomib-induced cytotoxicity in multiple myeloma.	Kikuchi, J., Ozawa, K., et al.	血液学部門
J. Urol.	Establishment and characterization of transplantable, luminescence labeled rat renal cell carcinoma cell lines.	Kobayashi, M., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Blood	FOXO3A as a key molecule for all-trans retinoic acid-induced granulocytic differentiation and apoptosis in acute promyelocytic leukemia.	Sakoe, M., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Thromb. Res.	Mutant macaque factor IX T262A: A tool for hemophilia B gene therapy studies in macaques.	ishiwata, A., Ozawa, K., et al.	血液学部門
Leukemia Res.	Combination of tipifarnib and rapamycin synergistically inhibits the growth of leukemia cells and overcomes resistance to tipifarnib via alteration of cellular signaling pathways.	Nagai, T., et al.	血液学部門
nt. J. Hematol	Imatinib for newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia: results of a prospective study in Japan.	Nagai, T., et al.	血液学部門
nt. J. Hematol	AA amyloidosis associated with macroglobulinemia.	Nagai, T., et al.	血液学部門

Hum Gene Ther.	Tracking of specific integrant clones in dogs treated with foamy virus vectors.	Ohmine, K., et al.	血液学部門
J. Clin.	Mesenchymal stromal cells for graft-versus-host disease : basic aspects and clinical outcomes.	Sato, K., et al.	血液学部門
Int J Hematol.	Incidental carcinomas detected by PET/CT scans in patients with malignant lymphoma.	Sato, K., et al.	血液学部門
J. Immunol.	Altered effector CD4+ T cell function in IL-21R <sup>-/-</sup> CD4+ T cell-mediated graft-versus-host disease.	Oh, I., et al.	血液学部門
Int J Hematol.	AA amyloidosis associated with macroglobulinemia.	Tatara, R., et al.	血液学部門
Bone Marrow Transplant.	IL-21 is critical for GVHD in a mouse	Meguro, A., et al.	血液学部門

計 18

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
摂食調節におけるホルモン感受性リパーゼの意義	石橋 俊	内分泌代謝学部門	900,000	補委 日本学術振興会科学研究費補助金
酸化ステロールエステルによる小胞体ストレスの誘導機構の解明とその病態における意義	石橋 俊	内分泌代謝学部門	10,010,000	補委 日本学術振興会科学研究費補助金
原発性高脂血症に関する調査研究	石橋 俊	内分泌代謝学部門	2,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究	石橋 俊	内分泌代謝学部門	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
安定同位体標識グルコース負荷試験による包括的糖代謝解析の展開	長坂昌一郎	内分泌代謝学部門	1,040,000	補委 日本学術振興会科学研究費補助金
エネルギー代謝調節と睡眠制御の相互作用に基づく体重管理についての基礎研究	長坂昌一郎	内分泌代謝学部門	800,000	補委 日本学術振興会科学研究費補助金
コレステロールアシル転移酵素アインザイムACAT2選択的阻害剤の開発	石橋 俊	内分泌代謝学部門	20,000,000	補委 独立行政法人医薬基盤研究所
				補委

計 7

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Genet 127(6):685-90	A single nucleotide polymorphism in the FADS1/FADS2 gene is associated with plasma lipid profiles in two genetically similar Asian ethnic groups with distinctive differences in lifestyle.	Bayasgalan T., Ishibashi S., et al.	内分泌代謝学部門
Diabetes Res Clin Pract 89(1):52-7	Distinct association of serum FGF21 or adiponectin levels with clinical parameters in patients with type 2 diabetes.	Eto K., Bayasgalan T., et al.	内分泌代謝学部門
Endocr J 57(10):903-8	Lipid-lowering effects of ezetimibe for hypercholesterolemic patients with and without type 2 diabetes mellitus.	Okada K., Yagyu H., et al.	内分泌代謝学部門
Circ Res 107(11):1387-95	The critical role of neutral cholesterol ester hydrolase 1 in cholesterol removal from human macrophages.	Osuga J., Nagashima S., et al.	内分泌代謝学部門
Biochem Biophys Res Commun 404(1):254-60	Abrogation of neutral cholesterol ester hydrolytic activity causes adrenal enlargement.	Yagyu H., Ishibashi S., et al.	内分泌代謝学部門
J Atheroscler Thromb 18(3):190-9	Depot-specific expression of lipolytic genes in human adipose tissues—association among CES1 expression, triglyceride lipase activity and adiposity.	Nagashima S., Yagyu H., et al.	内分泌代謝学部門

計 6

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
自己免疫疾患に関する調査研究	岡崎仁昭	アレルギー膠原病学	180万円	補 厚生労働科学研究費補助 委 金
TNF受容体関連周期性症候群の病態 の解明と診断基準作成に関する研究	簗田清次	アレルギー膠原病学	120万円	補 厚生労働科学研究費補助 委 金
免疫アレルギー疾患の予防・治療法 の開発及び確立に関する臨床研究	簗田清次	アレルギー膠原病学	300万円	補 厚生労働科学研究費補助 委 金
トキシコゲノミクス研究の臨床への 展開	簗田清次	アレルギー膠原病学	120万円	補 厚生労働科学研究費補助 委 金
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Rheumatol Int 30:1549-50	Acute acalculous cholecystitis in systemic sclerosis	長嶋孝夫	アレルギー膠原病学
J Rheumatol 37:18-25	Increased levels of interleukin 33 in sera and synovial fluid from patients with active rheumatoid arthritis.	松山 泰	アレルギー膠原病学
Clin Rheumatol 29:449-50	Autoimmune hepatitis and adult-onset Still's disease: can they coexist?.	長嶋孝夫	アレルギー膠原病学
Nephrol Dial Transplant 25:1725- 6	Is Chlamydia pneumoniae the causative agent of microscopic polyangiitis?.	池ノ谷紘平	アレルギー膠原病学
J Rheumatol 37(1):210-1	Abrupt development of sarcoidosis with a prodromal increase in plasma osteopontin in a patient with rheumatoid arthritis during treatment with	高島志乃	アレルギー膠原病学
Clin Rheumatol 29:819-820	Is polymyositis or dermatomyositis in patients with rheumatoid arthritis induced or unveiled by anti-tumor necrosis factor treatment?	長嶋孝夫	アレルギー膠原病学
J Rheumatol 37: 1066	Tocilizumab for rheumatoid arthritis with chronic hepatitis B virus infection without antiviral therapy.	長嶋孝夫	アレルギー膠原病学
Lupus 19:753-755	Systemic lupus erythematosus and Sjögren's syndrome induced in a case by interferon- $\alpha$ used for the treatment of hepatitis C.	大西佐知子	アレルギー膠原病学
J Rheumatol 37:1967-8	Anticyclic citrullinated peptide antibodies as markers of erosive arthritis in antisynthetase syndrome. Authors' reply.	長嶋孝夫	アレルギー膠原病学
J Rheumatol 37:2194-2195	Simultaneous pneumatoxis cystoides intestinalis and pneumomediastinum in a patient with systemic sclerosis.	本根杏子	アレルギー膠原病学
Mod. Rheumatol 20:528-30	Decrease in the levels of anti-cyclic citrullinated peptide antibody in Japanese patients with rheumatoid arthritis who responded to anti-tumor necrosis factor	大西佐知子	アレルギー膠原病学

計 11

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策方法の確立	藤井 博文	臨床腫瘍部	800,000	補委 厚生労働省
消化器悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	藤井 博文	臨床腫瘍部	1,000,000	補委 国立がん研究センター
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計2

- (注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成21年4月～平成22年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
	該当なし		

計0

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)  
2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
該当なし				補委

計 0件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医療の質・安全学会誌5:306-314	医学生を中心とした男女共同参画に関するアンケート結果-医師のワークライフバランスへの考察-	矢野晴美	感染症科
J Obstet Gynaecol Res. 36(6):1240-1244	Non-surgical management of post-cesarean uterine infection with marked myometrial gas formation.	外島正樹	感染症科
Eur J Clin Microbiol Infect Dis. 2010 Oct 13. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 20938704	<i>Bacillus cereus</i> bacteremia outbreak due to contaminated hospital linens.	笹原鉄平	感染制御部
日本消化器内視鏡学会雑誌52:1257-1260	アニキサス虫体の刺入を認めた残胃出血性胃潰瘍の一例	横田和久	感染症科

計 4件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計0

- (注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Asia-Pacific Psychiatry 2:92-98, 2010.	Mental health status of Japanese-Brazilian children at Brazilian schools in Japan.	Kondo, S.	精神医学
Clinical Neuropsychology 121:23-24, 2010.	Task difficulty dependency of prefrontal activation in four conditions of the Rock-Paper-Scissors task revealed using near-infrared	Matsumoto, K.	精神医学
Psychiat Clin Neurosci 64:213, 2010.	A patient with dementia with Lewy bodies (DLB) who presented with Takotsubo cardiomyopathy.	Noguchi, M.	精神医学
Psychiat Clin Neurosci 64:663, 2010.	A case of Williams syndrome with glove fetishism.	Noguchi, M.	精神医学
Psychogeriatrics 10:45-48, 2010.	Effectiveness of Japanese herbal medicine yokukansan for alleviating psychiatric symptoms after traumatic brain injury.	Saito, S.	精神医学
Neurosci Lett 482:216 - 219, 2010.	Mirtazapine abolishes hyperthermia in an animal model of serotonin syndrome.	Shioda, K.	精神医学
Drug Alcohol Depend 11:241-249, 2010.	Effect of risperidone on acute methamphetamine-induced hyperthermia in rats.	Shioda, K.	精神医学
臨床精神薬理 13 : 1477 - 1486	広がる双極性障害概念とその臨床的意義.	阿部隆明	精神医学
精神科診断学 3 : 22-29	急性精神病 (非定型精神病) における縦断的診断.	阿部隆明	精神医学
臨床精神医学 39 : 1005-1016	世界の精神医学の動向に見てとれる精神病理学の要請—DSM-5, ICD-11に向けて—	加藤 敏	精神医学
臨床精神医学 39 : 1523-1528	現代精神科医療における還元的思考の肥大と「歓待の精神」の変質.	加藤 敏	精神医学
精神神経学雑誌 112 : 402 - 411	シモーヌ・ヴェイユにおける摂食障害と博愛思想—摂食障害理解への一寄与—.	加藤 敏	精神医学
精神科治療学 25 : 113-118	卵巣嚢腫摘出後に劇的に改善した緊張病.	小林聡幸	精神医学
思想 1039 : 93-114	ローベルト・シューマンの詩と内因.	小林聡幸	精神医学
臨床精神薬理 13 : 547-559	治療抵抗性統合失調症に対するolanzapineの有用性—clozapineとの比較を中心に—	倉持素樹	精神医学
臨床精神薬理 13 : 1591-1598	統合失調症に対するolanzapineの長期安全性.	倉持素樹	精神医学

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトメラノーマの脳転移に特徴的な分子群の同定とその機能解析	佐藤 篤子	皮膚科学	1,200,000円	①補委 文部科学省 科研費
稀少難知性皮膚疾患に関する調査研究	小宮根 真弓	皮膚科学	2,000,000円	①補委 厚生労働省 科研費
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arch. Dermatol. Res.	Roxithromycin downregulates production of CTACK/CCL27 and MIP-3alpha/CCL20 from epidermal keratinocytes.	唐川 大	皮膚科
皮膚の科学	掌蹠膿疱症に対するロキシスロマイシンの有効性	小宮根真弓	皮膚科

計 2

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JOSKAS 35(1)30-31, 2010	疾患及び年齢にかかわらず、術後の血液データの変化、総出血量は同様である	関矢 仁	リハビリテーション科
日本骨・関節感染症学会雑誌 24 p.63-67, 2010	人工関節置換術抜去後に好適な抗生剤入りセメントスプレーの作成方法	関矢 仁	リハビリテーション科
臨床理学療法研究 27 p.67-69, 2010	人工膝関節全置換術術後患者の在院日数に影響を及ぼす因子について	石原 奈美	リハビリテーション科
臨床理学療法研究 27 p.85-87, 2010	脳出血と脳梗塞患者の退院時Barthel indexに影響を与える因子についての検討	浜田 桂佑	リハビリテーション科
Current Orthopaedic Practice 21(6)E42-E44,	Tophaceous knee arthritis requiring total knee arthroplasty.	Sekiya Hitoshi	リハビリテーション科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先	
新規血管新生調節因子バソヒビンによる婦人性器がん分子標的・遺伝子治療に関する研究	嵯峨 泰	産科婦人科学	1,430,000	補 委	文部省科学研究補助金 基盤研究(C)
クラミジア熱ショックタンパク質の卵管炎病態形成への関与	平野由紀	産科婦人科学	1,690,000	補 委	文部省科学研究補助金 基盤研究(C)
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

- (注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 148:195-198	Efficacy of montelukast, a leukotriene receptor antagonist for the treatment of dysmenorrhea: a prospective, double-blind, randomized, placebo-controlled study.	Fujiwara H	産科婦人科学
American Journal of Reproductive Immunology 65:127-137	Incidence of sperm immobilizing antibodies in infertile women with past Chlamydia trachomatis infection.	Hirano Y	産科婦人科学
Arch Gynecol Obstet 281:973-974	3D color Doppler of monoamniotic twin cord entanglement.	Kuwata T	産科婦人科学
J Obstet Gynaecol Res 36:405-410	Asymptomatic uterine artery pseudoaneurysm after cesarean section.	Kuwata T	産科婦人科学
Arch Gynecol Obstet 281:1081-1082	Uterine compression suture may be useful not only for hemostasis in postpartum hemorrhage but also for prophylaxis of acute recurrence of uterine inversion.	Matsubara S	産科婦人科学
J Obstet Gynaecol Res 36:856-860	Uterine artery pseudoaneurysm manifesting postpartum hemorrhage after uneventful second-trimester pregnancy termination.	Matsubara S	産科婦人科学
J Obstet Gynaecol Res 36:1240-1244	Non-surgical management of post-cesarean uterine infection with marked myometrial gas formation.	Matsubara S	産科婦人科学
J Obstet Gynaecol Res 36:58-63	Prolonged activated partial thromboplastin time in thromboprophylaxis with unfractionated heparin in patients undergoing cesarean section.	Matsubara S	産科婦人科学
Hypertens Res 33:422-427	Evaluation of a new and automated electrochemiluminescence immunoassay for plasmas Flt-1 and PlGF levels in women with preeclampsia.	Ohkuchi A	産科婦人科学
Reproduction 139:847-856	Regulation of hyperactivation by PPP2 in hamster spermatozoa.	Suzuki T	産科婦人科学
Obstet Gynecol 116:667-670	Cavernous lymphangiomas involving bilateral labia minora.	Watanabe T	産科婦人科学
J Obstet Gynaecol Res 36:667-670	Manual separation followed by local cleanliness for pediatric labial adhesion.	Watanabe T	産科婦人科学
J Obstet Gynaecol 30:836	No bleeding before, more bleeding later: the relationship between the presence of warning bleeding and the amount of bleeding during cesarean section in placenta previa.	Watanabe T	産科婦人科学

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日鼻誌 49(1):40-44	オスター病患者に対する鼻粘膜皮膚置換術の新たな工夫	市村 恵一	耳鼻咽喉科学
頭頸部癌 36(4):379-382	上顎部分切除術	西野 宏	耳鼻咽喉科学
Expert Opin Ther Yargets 14:289-302	Galanin recaptor subtypes 1 and 2 as therapeutic targets in head and neck sauemous cell carcinoma	Kanazawa,T	耳鼻咽喉科学
J laryngol Otol 124(12):1340-1343	KIT and plateletderived growth factor receptor alpha gene expression in laryngeal small cell carcinoma	Kanazawa,T	耳鼻咽喉科学
Am J Rhinol Allergy 24:341-347	Experimentally induced eosinophilic polyps in rabbit sinuses	Sejima,T	耳鼻咽喉科学

計 5

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。





## 2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
眼科臨床紀要 3 : 859-861	ロービジョン外来受診患者の転倒の頻度と程度	熊谷知子	眼科
臨床眼科64 : 449 - 453	ロービジョンケアにおける眼科医の役割	国松志保	眼科学
自治医科大学紀要 33 : 123-128	下直筋低形成の2例	牧野伸二	眼科学
自治医科大学紀要 32 : 97-102	切腱、筋分割を行わない上下直筋移動術を施行した外 転神経麻痺の2例	牧野伸二	眼科学
Molecular and Cellular Biochemistry 335: 75-81	T2 gene expression is proliferation-dependent and its ligand, IL-33, induces inflammatory reaction in endothelial cells	Aoki shinsuke	眼科学

計5

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床麻酔学会誌	エピソードコピーの将来	五十嵐孝, 他	麻酔科

計 1

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
トキシコゲノミクスの臨床への展開	草間 幹夫	歯科口腔外科	1,200,000	補委 厚労省科学研究費補助金
fMRIによる口腔癌術後患者の構音機能回復機序の解明	岡田 成生	歯科口腔外科	3,120,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日口外誌 56(6):373-375,'10	頬粘膜下に生じた筋上皮腫の1例	早坂 純一	歯科口腔外科
日口粘膜誌 16(1):24-27,'10	ビスフォスフォネート(アレンドロネート)を口腔内で溶解させたため発症した口腔粘膜潰瘍の1例	神部 芳則	歯科口腔外科
日口外誌 56(9):515-518,'10	上顎に発生したランゲルハンス細胞組織球症の1例	山下 雅子	歯科口腔外科
日口外誌 56(9):528-532,'10	膿胸関連リンパ腫の進展が疑われた下顎悪性リンパ腫の1例	吉田 佳織	歯科口腔外科
歯科放射線 51(1):5-7,'11	鉗子分娩が原因と考えられた下顎骨変形の1例	篠崎 泰久	歯科口腔外科
歯科放射線 51(1):8-9,'11	含歯性嚢胞内に石灰化物を認めた1例	篠崎 泰久	歯科口腔外科
Asian J Oral Maxillofac Surg. 22:172-174,'10	A case of quadruple primary cancer including lower lip cancer	Yamashita M.	歯科口腔外科

計 7

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
FOXp2遺伝子改変マウスを用いた脳構造機能の進化と言語獲得の分子基盤の研究	桃井 眞里子	小児科学	2,500,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究
自閉性障害におけるERストレス活性化の証明と治療介入モデルの作成	桃井 眞里子	小児科学	1,800,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
ランゲルハンス細胞組織球症に対する骨免疫学的視点からの病態解明	森本 哲	小児科学	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
サイトカイン・遺伝子発現および遺伝子多型解析による新生児疾患の免疫学的病態解明	高橋 尚人	小児科学	4,400,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
自閉性障害の病態に関与する候補遺伝子群の網羅的遺伝子発現解析	中島 尚美	小児科学	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究B
サイトカイン、転写因子測定による新生児仮死と脳室内出血の免疫学的病態解明	小池 泰敬	小児科学	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究B
小児血管腫進展における血管内皮前駆細胞とVEGF、VEGF-Cの役割の解明	中村 幸恵	小児科学	600,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究B
新生児における甲状腺機能と消化管ホルモンの関係の解析	川又 竜	小児科学	600,000	補委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究B
重症・難治性急性脳症の病因解明と診療確立に向けた研究	山形 崇倫	小児科学	900,000	補委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
メタボローム解析による筋型糖尿病の画期的な診断スクリーニング法の確立と治療推進の研究	杉江 秀夫	小児科学	19,500,000	補委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
日本人脆弱X症候群および関連疾患の診断・治療推進の研究	杉江 秀夫	小児科学	1,000,000	補委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
小児行動の二次元尺度化に基づく発達支援策の有効性定量的評価に関する研究	杉江 秀夫	小児科学	1,500,000	補委 厚生労働省 障害者対策総合研究事業
筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	杉江 秀夫	小児科学	1,000,000	補委 厚労省(国立精神神経センター) 精神・神経疾患研究開発事業
発達障害の神経科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究	杉江 秀夫	小児科学	2,000,000	補委 厚労省(国立精神神経センター) 精神・神経疾患研究開発事業
先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築	杉江 秀夫	小児科学	1,000,000	補委 厚労省(国立成育医療センター) 成育医療研究開発事業
乳児ランゲルハンス細胞組織球症の標準治療の確立と新規治療法の開発	森本 哲	小児科学	15,000,000	補委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
重症新生児のアウトカム改善に関する多施設共同研究	河野 由美	小児科学	1,500,000	補委 厚生労働省 成育医療克服等次世代育成医療研究事業
母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	河野 由美	小児科学	500,000	補委 厚生労働省 食品の安心・安全確保推進研究事業
メタボローム解析による筋型糖尿病の画期的な診断スクリーニング法の確立と治療推進の研究	福田 冬季子	小児科学	2,000,000	補委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業

計 19

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Int.	The association of chronic lung disease with Ureaplasma colonization and Interleukin-8 of cord blood.	矢田 ゆかり	小児科学
小児科臨床	欠神てんかんに複雑部分発作を合併した1例	門田 行史	小児科学
日本小児科学会雑誌	RSウイルス感染に合併した重症間質性肺炎の2例	横山 孝二	小児科学
Pediatr Blood Cancer	Nationwide survey of single-system single site Langerhans cell histiocytosis in Japan.	森本 哲	小児科学
Cytokine	Cytokine profiles of seventeen cytokines, growth factors and chemokines in cord blood and its relation to perinatal clinical findings.	高橋 尚人	小児科学

計 5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
心臓 2010;42:676-679	高度右室流出路狭窄を示した成人右室二腔症：肥大型心筋症との鑑別を要した1例	坂野康人	心臓血管外科、小児・先天性心臓血管外科
Asian Cardiovasc Thorac Ann 2010;18(3):250-252	Radial incision for ventricular septal defect with membranous septal aneurysm	Tateishi A	小児・先天性心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 2010;58:633-635	Rudimentary right ventricle to pulmonary artery shunt in the Norwood procedure	Tateishi A	小児・先天性心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 2010;58:265-270	Effect of inhibition of glycogen synthetase kinase-3 on cardiac hypertrophy during acute pressure	Tateishi A	小児・先天性心臓血管外科
Ann Thorac Surg 2011;91:929	Crossed pulmonary arteries associated with Interruption of aortic arch on Three-dimensional	Miyahara Y	小児・先天性心臓血管外科

計 5

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児泌尿器科学標準治療法の確立とデータベース構築に関する研究	中井秀郎	小児泌尿器科	100万円	補 委	国立成育医療センター
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 |

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
British Journal of Urology April 2010 Vol 107 1304-1311	Transurethral incision of congenital obstructive lesions in the posterior urethra in boys and its effect on urinary incontinence and urodynamic study	Shigeru Nakamura	小児泌尿器科

計 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日小整会誌	無菌性多発性骨髄炎の一例	井上真紀子	小児整形外科
日小整会誌	思春期特発性側彎症手術症例における術前臥位矯正側屈および臥位牽引X線写真の意義	吉川一郎	小児整形外科
Osteoporosis Japan	アレンドロネート治療による骨代謝過剰抑制が疑われた恥骨骨折遷延治療の一例	杉本直哉	小児整形外科
日小整会誌	化膿性関節炎の治療成績	渡辺英明	小児整形外科

計 4

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

(注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績 平成22年4月～平成23年3月

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科診断学3: 22-29	急性精神病（非定型精神病）における縦断的診断	阿部隆明	子どもの心の診

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

無し

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
麻酔 59:696-700	小児用新型ビデオ喉頭鏡ガイドスコープ@smallの連続50症例の使用経験	大塚洋司	小児手術・集中治療部

計

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本集中治療医学会雑誌	生後17日目に生体肝移植術を施行された新生児劇症肝不全の1例	田中進一郎	集中治療医学部門
日本集中治療医学会雑誌	下部消化管穿孔の合併症、予後、重症化の危険因子に関する検討	小山寛介	集中治療医学部門
日本集中治療医学会雑誌	大量の胸膜外血腫で発症した後天性血友病Aの1例	田中進一郎	集中治療医学部門
日本集中治療医学会雑誌	術後に肺性心の急性増悪を来たして死亡した肺高血圧合併全身性エリトマーズの1例・シルデナ	田中進一郎	集中治療医学部門
ICUとCCU	重症患者に対する血糖管理におけるインスリン持続静注プロトコールの導入と評価	小山寛介	集中治療医学部門
ICUとCCU	治療抵抗性の多形性心室頻拍に塩酸ランジオロールの少量持続投与が有効した1救命例	田中進一郎	集中治療医学部門

計 6

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Clin Exp Hematop 50:163-166, 2010.	A long course of leukocytopenia and splenomegaly with extramedullary hematopoiesis in the absence of clinically manifested rheumatoid arthritis.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Int J Hematol 92:647-650, 2010.	Incidental carcinomas detected by PET/CT scans in patients with malignant lymphoma.	Kazuo Muroi	無菌治療部
J Clin Exp Hematop 50:79-89, 2010.	Mesenchymal stromal cells for graft-versus-host disease : basic aspects and clinical outcomes.	Kazuo Muroi	無菌治療部
日本輸血細胞治療学会誌 56:639-	日本輸血・細胞治療学会による「輸血業務に関する総合的アンケート調査」における細胞治療に用いる細胞の採取、処理、保管に関する2008年の現状.	室井一男	無菌治療部
臨床血液 51:1623-1629, 2010.	造血幹細胞採取プロセッシングガイドラインについて.	室井一男	無菌治療部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	補元
				補	
				委	
				補	

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
移植 45(3)	腎移植臨床登録集計報告(2010)-1 2009年実施症例の集計報告(1)	八木澤 隆	移植・再生医療センター
移植 45(6)	腎移植臨床登録集計報告(2010)-2 2009年実施症例の集計報告(2)	八木澤 隆	移植・再生医療センター
移植 45(6)	腎移植臨床登録集計報告(2010)-2 2009年経過追跡調査結果	八木澤 隆	移植・再生医療センター
腎移植・血管外科22	T-cellクロスマッチ要請を示した 血液型不適合腎移植の1例	石川 暢夫 他	移植・再生医療センター
今日の移植 23	腎移植後早期に発症した ウイルス性尿路感染症の1例	石川 暢夫 他	移植・再生医療センター
Transplant Proc 42	Acceptable residualrenal function aftaer retroperitoneo scopic kidnev donation in elderly donors.	Yashi.M	移植・再生医療センター
Am J Transpl 10 2547-2552.2010	Living donor liver taransplantation for neonates using segment 2 monosubsegment graft.	Misuta. K	移植・再生医療センター
Liver Transpla 16 332-339.2010	Starategy to prevent recurrent portal vein stenosis following interventional radiology in pediatric liver transplantation.	Sanada.Y	移植・再生医療センター

計8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Clin Exp Hematop 50:163-166, 2010.	A long course of leukocytopenia and splenomegaly with extramedullary hematopoiesis in the absence of clinically manifested rheumatoid arthritis.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Int J Hematol 92:647-650, 2010.	Incidental carcinomas detected by PET/CT scans in patients with malignant lymphoma.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
J Clin Exp Hematop 50:79-89, 2010.	Mesenchymal stromal cells for graft-versus-host disease : basic aspects and clinical outcomes.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
日本輸血細胞治療学会誌 56:639-	日本輸血・細胞治療学会による「輸血業務に関する総合的アンケート調査」における細胞治療に用いる細胞の採取、処理、保管に関する2008年の現状。	室井一男	輸血・細胞移植部
臨床血液 51: 1623-1629, 2010.	造血幹細胞採取プロセッシングガイドラインについて。	室井一男	輸血・細胞移植部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 0

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
自治医科大学紀要, 33: 29-36, 2010	自治医科大学附属病院の食道癌手術成績1999-2009	仲澤聖則	腫瘍センター放射線腫瘍部門
Jpn J Clin Oncol 40: 80-85, 2010	Successful treatment of esophageal carcinoma in a patient with Fanconi anemia	Nakazawa, M.	腫瘍センター放射線腫瘍部門

計 2

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
ケロイドにおける遺伝子発現制御の解明	須永 中	形成外科	2,200,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

(注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成22年4月～平成23年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Plast. Reconstr. Surg.	Multidirectional cranial distraction osteogenesis for the treatment of craniosynostosis.	Sugawara, Y.	形成外科
形成外科	【頭蓋・顔面骨切り術における術前計画と手術の実際】頭蓋顔面骨異骨症 Le FortⅢ型骨切り術における術前計画と手術の実際.	菅原康志	形成外科
形成外科プラクティス	顔面骨骨折の治療の実際 胸骨骨折変形の治療：頬骨骨切り.	宇田宏一	形成外科
形成外科	【形成外科の治療指針update 2010】頭頸部疾患 その他の先天性眼瞼形態異常－内眼角贅皮，瞼裂狭小症.	宇田宏一	形成外科
形成外科	【形成外科の治療指針update 2011】頭頸部疾患 睫毛内反.	宇田宏一	形成外科
日本形成外科学会雑誌	2-オクチルシアノアクリレートを用いて閉創した，口唇裂術後瘢痕の整容的評価.	宮崎邦夫	形成外科

16

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
 (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)  
 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
該当無し				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 0  
合計69

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Transpl 10: 2547-2552, 2010.	Living donor liver transplantation for neonates using segment 2 monosubsegment graft	Mizuta K	移植外科
Transplant Proc 42; 4127-4131, 2010	Living-donor liver transplantation in 126 patients with biliary atresia: single-center experience	Mizuta K	移植外科
Liver Transpl 16:332-339, 2010	Strategy to prevent recurrent portal vein stenosis following interventional radiology in pediatric liver transplantation	Sanada Y	移植外科
Transpl Int. 2010 Aug 25. [Epub]	Double-balloon enteroscopy for bilioenteric anastomotic stricture after pediatric living donor liver transplantation.	Sanada Y	移植外科
Pediatr Transplant. 2010 Dec 27 [Epub]	Interventional radiology for hepatic artery complications soon after living donor liver transplantation in a neonate	Wakiya T	移植外科
日本移植学会誌45巻:259-262, 2010	小児生体肝移植後の肝生検後に敗血症を来した1例	脇屋太一	移植外科
日本小児外科学会雑誌46巻:1164-1170, 2010	内科的治療抵抗性の挙上空腸出血を合併した胆道閉鎖症に対して準緊急生体肝移植を施行した1例	眞田幸弘	移植外科
日本肝臓学会雑誌51巻:652-663, 2010	先天性門脈体循環シャントに対する外科的治療の効果	眞田幸弘	移植外科
日本小児外科学会雑誌46巻:1171-1177, 2010	急速に肝不全と門脈圧亢進症が進行した胆道閉鎖症乳児に対して準緊急生体肝移植を施行した1例-胆道閉鎖症乳児における肝移植適応時期の検討-	眞田幸弘	移植外科

計 9

合計281

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 島田 和幸
管理担当者氏名	病院事務部長 高橋 喜代志

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴室及びそれぞれの部署にて電子管理	患者ごとの患者受診登録番号による
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営管理課	
	高度の医療の研修の実績	経営管理課	
	閲覧実績	経営管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営管理課及び薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の体制第一の確保各の号状及び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	人事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	人事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	経営管理課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則 第一条の十一 第一項各号及び第九條の二十三 第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全対策部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全対策部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	用度課及び臨床工学部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全対策部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 島田 和幸
閲覧担当者氏名	病院事務部長 高橋 喜代志
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	70.4 %	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	24,931	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	22,812	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,743	人
	D: 初診の患者の数	47,516	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 基本理念 医療安全対策委員会・院内感染に関すること 医療事故報告体制 重大事故発生時の対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12回
・ 活動の主な内容： インシデント・アクシデントレポートの報告状況 事例報告・検討 医療安全対策	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 29回
・ 研修の主な内容： 事例紹介・周知 ノンテクニカルスキル 院内急変時対応の検証報告 AED・輸液・シリンジポンプ 危険薬の取扱い 委託業者対象講演	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 事例検討会 院内の巡視 部内カンファレンス	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (7名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (13) 名 ・ 活動の主な内容： 医療安全対策の推進 (職員研修の企画、運営、情報の収集・提供等) 医療事故発生時の対応 委員会・講演会・研修会の企画・運営	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策に関連する委員会に関する基本的事項 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 感染症の発生状況の報告とそれに対する対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容： 病院長が積極的に感染対策に関わり、院内感染対策委員会、ICT、感染制御部が中心となって、すべての職員に対して組織的な対応と教育・啓発活動をする。 院内感染対策委員会で検討した事項は病院長に諮問した上で日常業務化する。 感染制御部長は ICT および感染制御部を統括する。 感染管理専従主任看護師は感染管理リンクスタッフ勉強会を主催、統括する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 0 回
<p>・ 研修の主な内容： 新入職員対象オリエンテーション（全職種向け・看護師向け）：年 2 回（各 1 回） 研修医向け合同研修会：年 1 回 全職員対象講演会：年 2 回 『感染予防、これだけは！』（同一内容のDVD上映会を 3 回実施） 『輸液管理における感染対策』（同一内容のDVD上映会を 4 回実施） ICT 外来・病棟部門監査フォローアップ勉強会：年 3 3 回 リンクスタッフ（所属部署の感染管理担当者）勉強会：年 1 1 回 清掃業務委託業者への研修会：年 1 回（同一内容のDVD上映会を 2 回実施）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染制御部は臨床検査部・細菌検査室から微生物データを営業日に提供を受けて状況を把握している。 すべての職員に配布した感染対策マニュアルにアウトブレイク対応の手順が明記されている。 感染管理基礎データを収集して病棟毎に侵襲的処置の状況を月毎に確認している。 すべての病棟から MRSA 検出症例に関する状況を日報として感染制御部へ報告している。 医療従事者の針刺し・切創について感染症科の協力を得て常時対応としている。 独立した感染症科が組織横断的なコンサルテーション診療による適正抗菌療法を図っている。</p>	



(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 薬の処方及び麻薬の取り扱い 薬剤師の役割と連携について 各病棟における危険薬の取り扱い	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 業務手順書の改定 チェックリストによる手順書に基づく業務の実施状況調査	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ＜情報の収集の整備＞ ・ 製薬メーカーの学術担当者 (MR) およびホームページより添付文書改定情報等の収集 ・ 医薬品医療機器総合機構 (P m d a) のホームページやメール (メディナビ) による安全性情報等の収集 ＜改善のための対策＞ ・ 院内約束処方および特殊製剤の名称変更	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>①人工呼吸器について（医師、看護師対象）</li><li>②輸液シリンジポンプについて（看護師対象）</li><li>③除細動器について（医師・看護師対象）</li><li>④AEDについて（看護師対象）</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ① 有 ・ 無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>①人工心肺装置及び補助循環装置</li><li>②人工呼吸器</li><li>③血液浄化装置</li><li>④除細動装置</li><li>⑤閉鎖式保育器</li><li>⑥診療用高エネルギー放射線発生装置</li><li>⑦診療用放射線照射装置</li></ul>について保守点検計画を策定し実施している。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ① 有 ・ 無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>①医療機器の安全使用のために必要な情報を収集した場合は、共通の認識を持つために関連部署への情報提供</li><li>②医療機器の安全使用のための研修会実施</li><li>③医療機器の安全使用を目的とした事例の分析、検討、報告</li><li>④医療安全対策部において医療安全に係る情報を掲載した「あんぜん便り」という文書を作成、各部署に配布することにより、医療機器の安全使用を目的とした改善策等についての情報を提供している</li></ul></li></ul>	